

第2回武蔵野市特別職報酬等審議会会議要録

■日時：令和4年11月24日（木）午後5時30分～8時27分

■場所：411会議室

■出席者：会長、森会長代理、高瀬委員、田辺委員、徳竹委員、西上原委員、
花俣委員、安田委員
総務部長、人事課長、人事係長、給与厚生係長、人事係主任

1 開会

【会長】これから第2回の武蔵野市の特別職報酬等審議会を開会する。
次第に沿って進めていく。

2 議事

(1) 本日の進め方について

【会長】事務局より本日の進行について御説明いただきたい。

【事務局】本日の進め方は、議長、各会派の方、会派に属さない議員の方を順にお呼びして、議員活動の状況や議員の報酬額についてヒアリングを行っていただく。

全体でおおむね2時間程度を予定している。ヒアリング終了後には、委員の皆様に御議論いただく時間を予定している。

【委員】ヒアリングに入る前に確認したい。前回の議員改選はいつだったのか。

【事務局】平成31年4月だった。

【委員】新型コロナ感染症拡大の前にも活動していたという認識でよいか。

【事務局】平成から令和になるときの改選だった。1年ぐらいは新型コロナ以前の活動期間があった。

【委員】了解した。

【会長】丸3年になる。ちょうどこの期間はコロナ対策でほとんど終わった。

【委員】コロナ前も経験して、コロナ後も経験して、両方の比較ができる。

【会長】ヒアリングにおける質問の流れとしては、まず事務局より基本的な質問を行い、

その後で、時間の範囲内で各委員の皆様から御質問をお願いする。

(2) 市議会議員ヒアリング

(ヒアリングでの共通質問事項)

議員活動の状況及び報酬額についての考え

■議長

【議長】議長になり2年目だが、最初の1年目のときはコロナ禍でほとんどの行事がなく、外に出向いていく活動は少なかった。今年になってからは、経済の回復も含め、各種の会合や事業も縮小した形ではあるが行われてきた。市民の皆様とお会いすることが増えてきたという状況である。

今年度は議員による視察を行うという方針を出したことも踏まえ、武蔵野市としても視察を受け入れることとしたので、視察が増えてきている。その際の議長対応をしている。

今までと比べれば、議長の職としての対外的な面は少なかったと思うが、武蔵野市の場合には議長が常勤なので、ほとんど毎日勤務している。他の自治体の議長と話すと、週に二日か三日の勤務だという話もある。武蔵野市の議長職の特徴だと感じている。

議員報酬は、私個人の考えとしては、上げるべきという考えはないが、民間のほうの給与が3年ぶりの増と言われ、2.4%上がっているということもあるので、多少は上げていただけたら皆さんはいいのではないかと思っている。ただし、他の自治体と比較すると、1,666自治体中、武蔵野市は173位という状況である。最低のところは10万円台。地方自治体の大きさや人口によっても違うと思うが、差があるのが現状である。地方議員の成り手がいないという話は、報酬が安いからという面もあると思う。コロナ感染症によって、税収の見込みが少なくなるのではないかという危機感も踏まえると、難しい。

また、コロナになり、議員活動の方法が随分変わってきたと感じている。今は情報収集のやり方や、いろいろな形が、民間の社会の中でも変わってきている。今後の議員の在り方など、どんな形がふさわしいのかということを考えている。

【会長】市議会議員と議長は、12万円の給与差があるがどのようにお考えか。

【議長】他市と比べると武蔵野市の議長は拘束時間が長いので、そういう面では議長の報酬はかなり少ないとは思いますが、自分は金銭的なことにはこだわっていない。

上げたほうがいいのか、下げたほうがいいのかということではなく、どう考えれば良いの

かという、根拠が分かりにくい。上げていただくことも、こういう状況だと少し難しい。

■自由民主・市民クラブ（2名）

【議員】議員としての活動は、平成7年に市議会初当選以来、もう20年以上経つが、コロナ禍は通常の活動と大きく違う。単純に今後アフターコロナ、ウィズコロナということがどうなっていくかによって、報酬の在り方も変わってくると思う。会派の中では様々な意見が出たが、昨今の物価上昇、また円安のことを考え、今85%の企業が賃上げをする予定になっているということを鑑み、20年以上報酬が変わっていないことを考えると、そろそろ上げることを考えてもいいというのが、会派の大方の意見である。

コロナで会合等々がなくなった分、市民の方に情報公開をするという観点から、自分のレポート等、主に政務活動費を使っている。政務活動費は年間48万円なので、1回レポートを出したら赤字だが、政務活動費では賄えない分を歳費のほうから充当して行っている。社会現状も加味されて、ぜひ御検討いただきたい。

【議員】今政務活動費の話が出たが、年間で48万円では、レポートを2回、3回出すと、大赤字になる。全市で配布をするときは、業者に頼むが、やればやるほど赤字になってしまう。

また、55万円という歳費が、税金等も引かれて、手取りとして、年齢としてどう考えるのかということもある。20代で議員に当選したばかりの方であれば、その金額は妥当であるというところがあるかもしれないが、長年やっている人も新人も全く同じ、変わらないという金額が今後どうなのかという課題もある。

付け加えて言えば、ここに来る交通費等も持ち出しであることをどう考えるかも課題である。

【委員】議員報酬額が、多摩地区26市のうち3位ということで、かなり上位で、その一方、23区と比べるとやや低い。そのことについて何か意見はあるか。

【議員】よその市議会や、区議会と比較したことはあまりないが、比較的一生懸命頑張っている。今の金額が妥当か、低いかという話ではないが、比較が難しい。

23区は財政の考え方自体が違い、財政調整金というのがある。武蔵野市の場合は普通地方公共団体なので、自分たちの税収で主に賄っていかなければならないという、その意味では厳しさがある。

【委員】先ほど、いわゆる賃金が全国的に80何%上がっているという話が出たが、実際

のところ、中小いわゆる零細企業の場合は、給料どころか倒産や破産、あるいは廃業したり、コロナの影響もかなり受けて、非常に厳しい状況が続いている。これは都心部あるいは武蔵野市だけに限らず、全国的にそういう傾向が出ている。だから上がっているというよりも、むしろ淘汰がされてきている。商店会を見ると、駅前地区に関しては入れ替わりがまだ起こっているが、少し駅から離れたようなところだと、もう入れ替わりができなくなってきている。これを念頭に置いて市民の方たちに手を差し伸べるような活動をしてもらいたい。

政務活動費については、幾らあれば赤字にならないのか。政務活動費の基本的な考え方というのは使った分を払うということだ。私のところにもDMが来るが、年に少なくとも3回や4回は出しているのではないか。そうするとこの年間48万円というのは非常に少ないと思うがどうか。

【議 員】不特定多数の方に情報発信できるので私の場合は新聞折り込みが結構多い。1回で50万円から60万円かかる。本来は、年4回議会がある都度出したいが、それができないので、今は年に1回。それでも10万円、15万円程度オーバーしている。

【議 員】私はポスティングを頼むが、全市にポスティングしてもらうために業者に頼むだけで30万円以上かかり、郵送物を作ると赤字となる。政務活動費は、使わなければ返金なので、やらない人は返金する。やる人はきちんとした明細をつける。50万円が年に2回なのか、であれば100万円以内にするとか、調整しながら工夫をしてやっていくと良いと考える。

【会 長】広報については、お金をかけるのが目的ではない。いろいろなやり方があるので、ぜひ皆さんで御検討いただきたい。

■立憲民主ネット（2名）

【議 員】結論から先に申し上げると、据置きが良い。背景を申し上げる。一昨年議会基本条例ができて、一定のルールが施行され、機関としての議会が合意形成をして、執行部といい意味でディスカッションできる。簡単に言えばより良い市としての結論を出すために、一緒に同座して勉強できる。議会基本条例で、例えば講師でいえば、謝礼や交通費の問題とか、根拠ができたので出費ができる。それまでは任意にやっていた。同座して勉強する機会も大分増えている。

コロナ禍ではあったが、オンラインも含めて活動しており、また、物価高もあるため報

酬はむしろ上げるべきとも思うが、全体状況からすればそうもいかないため、会派としても据置きという結論を出した。

【議員】コロナの間に顔を合わせる活動はなかなかできないが、オンラインの活動やZ o o mでの勉強というのは増えている。

今日の議題ではないが、政務活動費に関しては1円単位で全部情報公開しており、それもこの2年でさらに改善されているが、政務活動費は増額があってもいい。

コロナで顔を合わせられないこともあり、広報・広聴ということについてはさらに強めていくべきというふうに考えている。議会をよくするために、市民との間がもっともっと風通しよくするために話し合っている。

【委員】議員活動については、以前の活動とコロナ後の今の活動はどのように変化されて、どのような苦労があるのか。また、コロナ禍での議員の役割について端的にお願いしたい。

【議員】勉強会などに限らず、本来の委員会活動も含めオンラインを導入している。ただ、本来の会議はこの2年間では全部現場で、会議体でやってきた。

苦労といっても、我々は悪口言われて当たり前で、言われないうじやしようがない。言われながら、自分がきちんと分かってもらえるように努力していくことだ。コロナになって、問題がないかという意味なら、この場をどう対応していくかということで、それぞれが取り組んでいる。武蔵野市議会は一つのチームになって対応してきている。自分1人が目立つみたいなのは、活動は自由だからあるとしても、コロナ禍という事態に対して、議会としてどう取り組むかはみんなで相談する。その素地がある。

【議員】補足として、一昨年コロナが始まって、議会のインターネット中継が前進した。今は常任委員会もインターネット中継でリアルタイムで見られる。こういうところが一つ変わった。

それに付随して、傍聴者は、今まではスマートフォンやタブレットやパソコンの持込みできなかったが、持込み可能に変わった。皆さんの利便性、情報共有に役立っているのではないか。

コロナの前後で議員活動がどう変わったかは、先ほど申し上げたとおりだが、一つ感じるの、議員ももしかするとそうだが、市民の皆さんも、視線が少し狭くなったような感じを受けている。おおらかな感じがなくなっているような閉塞感を感じる。

【委員】市民の皆さんは、本当にどの情報が正しいのかというのがなかなか見えにくい。

特にコロナになって情報が市民に伝わりにくいと感じている。

行政報告と、皆さんの議会の活動、市民にどうやって周知するのがベストなのか。今ネットの話もあったが、ネットは使えない方もいる。そこでどういう工夫をされるか、その議論をされているのか伺いたい。

【議員】各自が、市長からの行政報告、自分の市政報告やレポートなどを出しているが、それぞれ主観が入るから、まちまちだ。それを市長が言ったとおりに市民に同じように伝わる方策はないかという話なので、そこはまさにこれからの課題だ。今言われたのは特に一番大事な部分の市長が行政報告したその骨格と詳細について、正確に伝えるすべということなので、ここはなかなか難しい。政策化すれば市報にも議会報にも出るが、過程は個人の活動のレポートなど個人に帰する形になる。そこはこれからの課題だ。

一度、市議会報のことについて、全党派で3駅の街頭に出て一緒にアンケートをとったことがある。そのアンケートを基にして少しずつ改善してきている。そういう取り組みを政策課題でもできると良いと思っている。

【議員】広報・広聴というのは先ほど申し上げたとおりで、市民意見交換会を行うということも条例に載せたので、スイングのスカイルームで意見交換会をハイブリッドで行う。今後、直に市民の皆さんと議会が話し合う場は定例化していく。

議会だよりも、リニューアルしながらもっと強化していくという議論をしている。議会のSNSも一度着手はしたが、もう少し先になる。

■市議会公明党（1名）

【議員】議員活動はコロナ前とコロナ後で本当に大きく変わっている。コロナ前は、地元の市民グループであるとか、各種団体の方から様々な意見・要望等をいただく中でそれらを政策に反映する形で進めていた。また、個々の方々との対面式のいわゆる家庭訪問なども行う中で、様々な要望をいただいていた。コロナになってからは対面でお会いする機会が本当に少なくなったという状況もあり、通常行ってきた活動はほぼできなかったというのが実態だ。

コロナが起こって2年目ぐらいからいわゆるオンラインなどを通じながら、いろいろな方々と意見交換する中で市政に反映するという活動にシフトしてきた。今までとは大きく変わったと感じるのは、今までできなかった、いわゆる議員としての勉強・研修活動などにも力を入れる時間ができたことであり、ある意味で収穫があった。

報酬という観点からすると、報酬という名前ではあるが、実態としては給料に近い性格のものであろうと受け止めており、日常生活に必要な報酬という受け止め方からすると、多くもなく少なくもないと受け止めており大事に使っている。

【会 長】コロナ禍での議員活動で苦労しているところを具体的に伺いたい。

【議 員】家庭訪問を今までやってきたが、訪問自体を自粛してきた部分もある。どういう形で市民の意見を聴くことができるか、どう工夫すればいいのかというのが一番の悩みどころであった。2年ぐらい前は何をどうすればいいんだろう、正直何をしたいか分からないと、そこが一番大きな悩みだった。今は、かかるときはかかる、かからないときはかからないというような、市民側の意識の変化もあり、訪問できるようになってきており、少しずつ活動を再開しながら、意見をいただいている。

【委 員】オンラインだと、一定の方との周知、いろいろな活動についての周知はできると思うが、それ以外に一般市民の方にどのような広報の仕方をしているのか。広報には郵送代など、金額として大変ではないかと思うがどうか。

【議 員】一般の方には個人の通信、市政レポートなどをネット印刷などで安く作って、それをポスティング形式で配布している。業者に頼むとお金もかかるため、限られた数ではあるがどちらかという自分で手配りしている。

【委 員】研修活動に力を入れているということだが、活動費の中で研修費・広報費の額は十分か。

【議 員】今までの研修という部分では、例えば地方への視察であるとか、そういった部分で政務活動費を使っていたが、今視察にもなかなか行けない状況で、資料購入費のほうの主になっているのが実態だ。金額的には3分の1ぐらい返納している。不十分ではないが、通常の活動になったときに、視察など、金額的にも増えるので、少ないとも言えないけれども、多過ぎるとも言えないという、今の状況でほぼほぼ賄えているという状況だ。

【委 員】議会報で、視察に行っているという情報は、コロナの前には載っていたが、行ったというだけで市民には何か伝わらないものがあつた。今後何か考えはあるか。

【議 員】議会報だとどうしても紙面の都合など、細かいところまで出せないのが、紙ベースの市政レポートや、あとはSNSなどで、個人の活動の内容についての市政レポートを発信する部分を充実させる必要がある。

【委 員】議員報酬について、据置きと引上げと引下げとあるかと思うが、どう考えているか。

【議員】報酬を増やしてもっと働いてほしいという、そういう声があるのも承知しているし、一方で今の議員報酬は高いんじゃないかという意見も受け止めているが、現状、私個人としては据置きでいいと考えている。

■自治と共生（1名）

【議員】これまでの議員活動とは、この間2年半ほど様相が変わっていた。リアルな催物や、話を聴く機会が減ったので、オンラインでのミーティングや、講演会・学習会への参加が、コロナ2年目は非常に増えた。調査活動など足りているのか不安を持っている。

今年に入って、商店会のイベントも地元で再開されたりしており、コミュニティセンターの企画も幾つかできるようになったため、少しずつリアルな付き合いがでてきている。少しずつ、市政や暮らしの困り事などを直接聴く機会が戻ってきたと思う。

報酬の額については、多過ぎるという気持ちはあるが、今人材難ということをやられている中で、ある程度の報酬を保証しないと、市政に全部の時間を費やして頑張ろうという若い方が増えないんじゃないかという声も聴いており、難しいところだが、現状維持というのが妥当と思っている。

【委員】コロナ禍で活動内容は変わったか。皆さんと会えない分、情報を展開するのに必要になったことで大変だったことなど、どういうことに苦労したか。

【議員】地域の方の生の声を聴く機会が激減して、それをもって市政に反映させるような提案をしていったり、チェックしたりということをする立場なのに、その生の声が聴けないことの不安があり、探り探りの活動であったことが非常に課題だ。

【委員】報酬と関わるものとして月額4万円の政務活動費があるが、その額についてどのように考えているか。

【議員】政務活動費は主に議会報告レポートの発行等に費やしている。その他は、以前は他県に視察に行ったりということもできたが、最近はできない。

報酬は下げて、政務活動費を多くするという考え方があると思う。政務活動費は人によって使い道があって使う人は使う。使い道がない人は返す。報酬よりも政務活動費のほうが、実際の議員一人ひとりの活動に見合ったものになる。

武蔵野市の市議会では、政務活動費を全額全員が使っているわけではないので議員の中でどうするべきかを話し合うことが必要だ。

■ワクワクはたらく（1名）

【議員】議会の場合、市民福祉の向上、当然それを求めるという大きな方向性はあるが、具体的な内容に入ると、議員それぞれが様々考え方を持っていて、統一された価値観の下にない。この組織の難しさということを痛感している。

議会そのものは年に4回、各回約1か月間議会が開催されるが、議会のない間は、例えば、陳情の審査のために、そのバックグラウンドになっている事実を把握するための調査が必要となる。バックグラウンドの理解ができれば、会派としての方向性を調整して、次の委員会に臨む。政策秘書はいないので、個人で調査をする。

報酬については、その適正性、自らが働いていることに対する適正性の評価を私どもがするものではないと考えている。大前提として、選挙に出るときに条件として示されている。その前提条件の下に選挙に出るか出ないかを決めるという形なので、報酬が高くなれば、お金が欲しいからなるという議員も増えるかもしれない。報酬を少なくすると、それでは生活ができないからと言って、志はあるけれども議員にはなれないという選択をする方も出てくると思う。議会を構成する議員の前提条件が報酬ではないかというふうに理解をしている。

【委員】この2年間の間にできた議会基本条例、これについてはどう考えているか。

【議員】あって当たり前なのが今ここで議論されているんだという意外性に驚いた。一方で今だからこそ必要だということが、議論をすればするほど見えてきたと思う。市議会と市民の意見交換会を行うが、その中で議会基本条例について議論をする。今必要だということを伝えられるように考えている。

【委員】条例にある議員の基本活動というところでは、市の執行部に対して適正かどうかの監視評価の立場にあるとされているが、具体的には今後どのように対応していこうと考えているか。

【議員】監視をするためには仕組みを知ることが必要だと考えている。そもそも市政というものが、そしてこの市役所という組織、いわゆる執行部の組織がどういったものであるかという本質を、これからも情報を得て学び続けたい。

【委員】今の議員報酬に関して、率直に金額的にはどう考えているか。

【議員】個人的には、生活には足りている。

【委員】政務活動費に関してはどうか。

【議員】政務活動費は、昨年からは返還をしている。今はインターネット、SNSの時

代で、わざわざ印刷をしなくてもいろいろな情報を出すこと、発信することができるということもあり、必要でない金額については返金する。

【委員】調査費用はどうか。

【議員】それもネットが非常に発達しているので、ネットから得る情報でかなり賄えている。

■日本共産党武蔵野市議団（1名）

【議員】議会の活動は、年4回の定例会、それから定例会以外の閉会中の委員会、そのための質問の準備、調査などがある。他に、議会運営委員会では、議会改革の議論を継続的にかなりの時間を使って議論している。

あとは市民の皆さんからいろいろな相談・要望を受けている。議員は、何時から何時という仕事ではなく、曜日にもあまり関係ない。いろいろなところに出かけたり、会合に出たり、相談を受けたりということがある。

報酬の水準だが、今の経済状況、物価の高騰や、賃金は上がらない、年金は下がる、増税も含めて、市民の皆さんの暮らしの状況というのはなかなか厳しいのではないかと思う。そんな中で議員の報酬を上げるのは、市民の理解は得られないと思っており、上げるべきではない。議員の仕事はなかなかハードな面もあり、一定の報酬は必要だと思うが市民の理解を得られるかどうかを意識をする必要がある。据え置きが現状では妥当と思う。

【会長】コロナ禍で、どのような議員活動の中で苦勞しているのかをお話しいただきたい。平常時と違う活動をしなければ議員としての仕事が果たせないのではないかと感じているが、どうか。

【議員】今は会議などはZ o o mなどでも可能だが、いろいろ込み入った話を聴く際には、対面というのは大事だと感じている。いろいろ中止になったり、市民の皆さんと直に接する機会というのは減ってしまい、そういう面ではなかなか厳しい。議会の中でも、コロナの中で議会の在り方はどうするかというのは、議論がどうなるかという状況だ。

【委員】質問の準備や調査など、政務活動費を使用して、どのようなことをこの3年間でしてきたか伺いたい。

【議員】政務活動費の主な用途は議会報告のチラシを作って、お配りするということで印刷代、紙代である。調査としても資料の入手などがある。今はインターネットが使えるので、情報の集め方は昔に比べれば容易だ。ネット上にない資料は図書館で調べたり、電

話で聞いたりしている。

【委員】額はいかがか。

【議員】政務活動費の額は、上げるかというところ、そこは市民的にどうなのかというのはやっぱり意識する必要はある。単純に上げればいいということでもないし、下げればいいということはないし、そこは議論が必要だ。

【委員】先ほど報酬を下げて政務活動費を上げたほうがいいんじゃないかという意見もあったが、その点はどうお考えか。

【議員】報酬を下げて政務活動費を上げるというのは、合計額は同じということか。政務活動費というのは用途が限られており、政務活動費が足りないなら、もらっている報酬から一部充てれば、結局同じことだろう。どの程度報酬を下げて、どの程度政務活動費を上げるのかという具体的な話になれば、もっといい議論になるかも知れない。

■小さな声を活かす会（1名）

【議員】議員活動の状況としては、私は代表と議会運営委員会に出ている。公務はほかにも都市計画審議会などに参加している。各種の説明会にも極力参加して、どのような意見があるかを参考にしている。自分たちが行った活動に関しては、議員個人のレポートを発行して、それを配布をする形で活動状況を報告している。

また、個人的には街頭で適宜自分の考えややったことをお伝えしたり、市民の方に出会った際にいろいろな意見・要望を受け、関連の調査・検討を行い、回答をしている。

議員報酬の額については、結論を言うと今の金額を上げる必要も下げる必要もない。今物価が大変高騰していて、食品、電気・ガスなどのエネルギー関係の価格も上がり、困っている人もたくさんいる。本来ならそれに合わせて報酬も上げていくべきだと考える。ただ、今の状況を考えると、議員が自分たちの立場だけで物価上昇に合わせて上げるということはふさわしくない。据え置きでよい。

付け加えると、使途が限定されている政務活動費については、何パーセントか上げるといっても考えていいと思う。半年ごとに支給されているが、例えばそれを1万円あるいは2万円増やすということに関しては、ぜひ検討していただきたい。

【委員】政務活動費が上がればいいということだが、具体的には何に使っているか。

【議員】私で言うと、ほとんど活動報告のチラシだ。3か月に1回の議会ごとになるべくこんなことがあった、こういうことを思っているということをやりたいが、議会報告は

市議会で話したこと以外は政務活動費の支出にはならない。

武蔵野市民に関係あるけれども、私はこう考えているというのは、それは自分の主張になるから、市議会で話したことではないので、違うということになる。

ほかには研修会に出ることがある。

■会派に属さない議員

【議員】議員活動は、初めて行うことばかりだったが、コロナになって市民の方との直接の触れ合いが2年ほどできなかった。最初の1年間は、市民の方にお困り事はないかなど、直接お会いしに行ったり、市民の方の勉強会などに伺い、意見交換などをしていた。

また、議会活動は年4回の定例会の傍ら、広報としては年1回チラシの発行などをして、自分の定例会ごとに提案していることなどをお知らせするという形で、全戸配布などを行っている。コロナになってからはオンラインでの活動で市民の方と意見交換などをすることが多くなっている。

また、オンラインでの勉強会が増え、政策立案の勉強などを活発に行った。

ほかに、所属している党の基礎自治体の集まりの関係でもオンライン視察やオンラインでの勉強会を行い、その内容を市民の方へ情報提供するなどあった。

【会長】報酬等についてはどう考えているか。

【議員】私は昨年の市長選までは会派を組んでおり、二人で活動していたが、会派として活動しているのと、会派に属さない議員として活動しているのでは、議会活動量が変わってくるという実感がある。活動の仕方は個人個人でどのようにやるかによって、相当忙しく、もう休みもなくやられることもあると思うが、反対に自分の裁量でできるので、仕事量を減らすということもできる。その中で報酬は一定額なので、その人の働き方によると感じる。私自身は安くはないけれども、高くもないという印象だ。

【委員】据置きにするか、上げるか、下げるかという結論を念頭に置いて、三択でどうかを伺いたい。

【議員】議員の仕事としてやはり行政のチェックというのが重要になってくる。その意味では専門性の高さというのもとても重要だ。行政職員というプロを相手に、鋭く質問しなくてはいけないと、この3年半本当に実感しており、専門性がある方に入ってきていただくためには、あまり安くても難しいと思う。下げるというのは、相当な理由があれば必要であるとは思いますが、現状では下げるのではないかと思う。

【委員】 コロナ禍の中で幼小中学校の課題が出てきたと思うが、議員としてのその課題解決の役割・活動について、どのようなことを考えているのか教えてほしい。

【議員】 課題をきちんと把握し、それに対して解決策というのを提案していくというのも、一つ議員の仕事だとも思う。職員に対してのヒアリングや、お子さんがいる市民の方、支援者の方、そういった方にこういった問題があるのかをよく聴き、議員としての立場で行政に提案していく、課題解決に対して行っていくというのが重要と感じる。

【委員】 政務活動費の使い方だが、市民への情報公開として紙派とネット派に分かれているなという印象があるがどうお考えか。

【議員】 紙も年1回だが、かなり政務活動費をそちらに投入して、印刷などしている。また、SNS等は特にお金という点では、印刷に比べて費用が少ないので、そういったインターネットを活用しての情報発信・広報を行っている。認知できる場所というのはそれぞれなのでどちらも必要だ。

■会派に属さない議員

【議員】 議員としての活動は、市民の意見聴取、市民だけではなく団体、その他から。また、新聞その他のニュース、あるいは市の情報をしっかりと捉え、自分のなすべきこと、自分の考えをまとめ、発表していくことも非常に大切だと考えている。

報酬については、私が平成15年に議員になってから報酬が上がっていない。消費税や社会保険料の増、その他考えていくと厳しい。

現役世代の方が市議会議員となって、自分のやるべきこと、あるいは社会をよくしたいと思えるような、それなりの報酬は必要だと考えている。

議員年金がなくなり、例えばサラリーマンであれば、厚生年金に入って生活、例えば40歳でこれから先20年間、あるいは24年間でも議員活動をやっていこうと思ったところで、将来の生活保障がされないということになると、今の報酬で魅力があるかと問われるとなかなか厳しい。家庭の収入を支える中で、例えば脱サラをして政治の道に進むというのは厳しい。

【委員】 増額という話だと、その根拠はどう考えるか。

【議員】 根拠というよりは、議員の成り手の意欲という意味で話をした。しっかりとこの社会に貢献していこうという意欲が出るような、そういった報酬は必要なのではないか。

■会派に属さない議員

【議員】政務活動費について、今期は1円も使わないというふうに自分の中で決めて、自分の負担で、討議資料、チラシ等は配布している。月額報酬55万円を高いか低いかは置いておいて、ボーナス300万円というのはいかがなものか。議員としてボーナスをもらうべきなのか、いろいろと考えることがあった。

政務活動費も入れると約1,000万円ぐらいの報酬となる。私自身は多いと思っているので、下げても全然問題はない。各議員は様々な考えがあると思うが、私自身そう思っている。

【委員】少なくともいいとのことだが、自腹を切って活動が長く続けていけるのか。

【議員】世の中見ていると、なかなか景気が回復していない。議員には、この期末手当というボーナスについてはあまり関係ないと思う。ボーナスの範囲で様々な活動費を捻出してやり繰りできる。ボーナス無しで55万円ということであれば、据え置きか、少し上げてもいいんじゃないかとも思う。

【委員】年収ベースでいくと、ボーナスがあるという前提で、幾らぐらいまで下げるべきか。

【議員】月額5万円ぐらいは下げて良い。それでも年収850万円ぐらいの金額になる。

(議員ヒアリング終了)

【会長】第1回審議会の「議事要録」については、御意見や訂正があれば事務局に申し出ていただきたいがいかがか。

(第1回会議要録訂正：なし)

(3) 審議

①市長・副市長の給料額及び退職手当について

②議員報酬について

【会長】前回の審議及び本日のヒアリングも踏まえて議論したい。論点を整理しているので、事務局から説明をお願いします。

【事務局】論点については大きくは2点。1つが特別職の給料額と退職手当について。前

回の改定があった平成23年度から、現在までの12年間の社会経済情勢や常勤一般職の給料改定率を鑑みて、今回反映させるべき要素があるかどうかということを御審議お願いしたい。

2つめは議員報酬について。本日ヒアリングいただいた内容を踏まえ、議員報酬額について方向性について御審議いただきたい。政務活動費については諮問事項ではないが、言及するのであれば、付記事項で記載するかどうかについて御審議いただきたい。

【会 長】では審議に入る。意見をお願いしたい。

【委 員】各会派意見を確認したが、大半が報酬に関しては現状維持と言っている。最後の議員に関しては減額5万円ぐらいしてもいいとの話だが、総合的に考えて据え置きでいいと感じている。政務活動費のほうを上げてほしいという意見が一定あったが、この審議会ですべきではない。

特別職の給料及び退職手当については多摩地域でもかなり上位に来ていることを踏まえ、現状維持でも問題はない。市民がこの物価高で苦しんでいる状況の中で、議員も含め上げるとするのはなかなか難しいだろう。

【委 員】今、まとめていただいたとおり、議員の意見を聞いても、基本は据置きということで、積極的に上げていくのは難しいだろうし、かといって下げるとということもないと思う。特別職の方については、退職金が高いなと思う。税負担を考慮すると、本来は報酬をもう少し上げて、退職金は出ないというのが筋だと個人的には思う。

【委 員】市民感情からしたら、今は上げるべきではないというのははっきりしている。ただ、議員がコロナ禍で工夫をしながら活動しているというのは高く評価されると思うので、議員活動に特化した政務活動費については見直しを行っていいと思う。使い方が限定されており、やる気次第で使えるし、また、工夫をすれば、減額もできる。報酬は上げるのも下げるのも難しい。

【会 長】それでは事務局のほうで今の意見をまとめていただきたい。

答申原案を会長代理と私でとりまとめて、第3回目の審議会に諮りたいと思う。それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

(4) その他

【会 長】事務局よりその他の事項の説明をお願いします。

【事務局】 審議会の開催の時期を、2年に一度という形で行っているがそれで良いのかどうかについて皆様の御意見を伺いたい。

【委員】 10年くらい前から2年ごとになった。

【会長】 こういう世の中が激動している時期に、2年に1回でいいのかということか。短く1年ごとにやっていく必要もあるのではないかとということ。

【事務局】 今、インフレで物価が上がって、賃金も上がるかもしれないという話もあり、そうすると少し上げるということも考える必要があるかどうか。

【委員】 今まではずっと横ばいだった。

【委員】 報酬を考えて議員になる人は多いのか。

【会長】 そういう話もあったが、生活基盤の話だ。

【委員】 市政を考えてくれている人に担ってほしい。

【会長】 結局そこは市民が不信を感じるころだ。自分の志のために市議会議員になっているのではなく、自分の生活のために市議会議員をしているんじゃないかと。

【委員】 昔は自分の仕事を持っていて議員になった人が多かった。

【委員】 昔は名誉職としてなるような時代もちろんあったが、今はもう責任職で市民のためにという、潔い志があれば、それに見合った報酬だと納得できると思う。

【委員】 お金も大事かもしれないが、志が基本だと思う。

【委員】 本当は給料の額ではない。

【会長】 それでは今日はこれで終わりとする。次回は1時間半程度御議論をいただいて、答申をまとめていきたい。事前に本日の議事要録と、答申の原案をお送りする予定である。

(終了 午後8時27分)